

## パラシュート回顧録 (OB 会発足に向けて)

日本落下傘スポーツ連盟副理事長

防大パラシュート部 CSO

小宮 國男

1960 年 陸自空挺団笹島讓氏により、日本にスカイダイビングがもたらされた。

1961 年 空挺団にインペリアルスポーツパラシュートクラブが発足。

1962 年 日本学生パラシュート連盟 (学パラ) 発足。

1963 年 大串康夫氏が主将として防大にパラシュート部が設立された。

私は、その翌 64 年 (昭和 39 年) 学パラ (今日自然消滅?) に入り、防大とのお付き合いが始まった。(以後何かと気になる方もあろうかと思うので実名は避けたい。)

更に 1972 年に日本唯一の統括団体としての「日本落下傘スポーツ連盟 (JPSA)」が発足し、連盟派遣の防大 CSO として着任、何故かずるずると今日に至っている。

こんな関係で、防大パラシュート部の一期生 (本科 10 期) から今日 (何期?) まで全ての人を知るようになった。

思い起こせば、学パラ時代は春夏 2 回の二週間合宿を含め空挺団に入り浸り、合宿前には体力検定、メンタルテストを実施、合宿では空挺教育隊の専任助教が付き、防大生に負けるなどばかりに一週間目は、基本教練、体力向上運動、レンジャー訓練 (?) 等々、二週間目に入りようやく基本降下訓練に入るといふ、現在では考えられない訓練を行ってきた。

当時加盟していた大学は、東大、慶應、上智、工学院、日大、独協、成城、拓殖、武蔵工等々それに当時唯一クラブとして承認され活動していた我が母校神奈川大、ここに防大が加われば更に大きな組織となっていたものと思うと残念。

各大学の学祭には、全員 (総勢約 30 名) でその大学の学生の顔をして参加、各大学の創部に努力したものである。

学生時代防大生と、学パラへの入会を如何にしたらスムーズに出来るか、また学生選手権の実施についてと言う名目で良く飲みながら検討 (?) したこともあった。

しかし学パラの活動は、降下以外殆ど平日行わざるを得ない事から、防大が入会

しても何の役にも立たないという人間もおり、話はなかなか進まない内私が卒業、日本落下傘スポーツ連盟設立の動きもあり、防大は学パラの降下におんぶにだっこのような状態で終始した。

当時降下には、その都度航空局への申請が必要であり、手書きが認められなかった（こんな法律は無いが）事から申請書の作成は日本航空協会に依頼し、和文タイプ（ワープロはおろか電卓さえない時代）にして提出、降下場は習志野演習場（館林は S45 から）であったため、空挺団の調整、防衛施設庁への申請等々雑用はしきり無しにあった。

このような関係で、降下は1ヶ月に1日出来れば御の字、まして資材の不足から、一人、1回出来ればいい方で、年に10回の降下は夢のような状況にあった。

これではレベルアップは望めない、そこで私がぶち上げた目標、“年20回の降下”に向け、スポンサー探しから、展示降下、この中には部隊の記念祭での降下も数多くあった。中でも、S41.11 JONSON AIR BASE（入間基地）での展示、また S42年ごろから厚木基地の米軍ダイバーと知り合い、基地内での降下は元より資材の援助を受け、実力ともに学パラ全盛期となった。S46.5の基地祭の展示では日本返還直前という事もあり日米の空中バトンタッチを実施、米代表は Captain Smith、日本代表は勿論私小宮。

このように馳走する学パラ生に比べ何かと制約の多い防大生、しかし将来は幹部自衛官になり、各地にパラクラブが出来ることを期待したが、卒業後は各地に散らばり殆ど降下をしなく（出来なく）なっているのが現状。ようやく少しずつ卒業後降下が出来るようになってきたのが、パラシュート部1期生が1佐、将軍になられてからと言えよう。

今考えれば、防衛庁と言う大きな組織の中、当時期待したのが所詮無理なことといえる。

1970(S45).9 第10回 WPC(ユーゴスラビヤ BLED)日本初チーム編成による出場、降下回数私が96回(全てTU傘)で日本参加者最高、最低は65回、これで世界選手権に出場しようというのだから度胸の良い事、ちなみに出場者の最高は3000回を越えていたのには驚いた。更に全員が、現地でユーゴPCなる傘を調達、無謀にもその傘で参加したのだから、勝てるわけが無い。それでも零(ターゲット10cm、10mまで測定)を踏んだ者もおり十分戦えたと確信する。

また、この世界選手権参加により日本のレベルは、急速にUPしたといえる。

1972.5 第 1 回日本選手権開催。団体優勝（ブラックキャット SDC）、個人惜しくも準優勝。

同年 8 月 第 11 回 WPC(米国オクラホマ州 Tahlequah)出場、降下回数 162 回、総勢 14 名による大選手団を結成。今大会で Style Jump 日本初正式記録(12.5 秒)樹立(1 位米国 7.1 秒)。帰国後、国際 D 技能証を申請、民間人初の金賞を (財)日本航空協会長 直々に受領した。

さて防大は、本科 20 期前後から策士が現われ学パラ生と結託し、慰労と称して私宅に参内、飲んで食って騒いで帰ると言うことが度々有ったものである。(これも 30 期前後までであったか、私が横浜に移転してからは殆ど顔を見ることがなくなり、非常に残念?に思う。)中には、わざわざ九州まで結婚式に呼んでくれた人間もあり、そんな付き合いが出来ていたものと喜んだものである。(でもこんな時は、顎足は出して欲しいね!)

こんな中、昭和 52 年には開校祭での展示降下を実現、本科 22 期学生 3 名が勇姿を披露（私は地上誘導）パラ部の歴史の 1 ページを飾った。しかも PC 傘（スクウア傘はユーゴ大会からお目見えしたが開傘率は 50~70%程度という状態で、まだ主流は TU 傘から PC 傘に移ったばかりといえる時期であった。）での展示、しかし 1 名は見事グラウンドに着地したが若干 2 名が少し?グラウンドを外しランディング、以後 23 年間開校祭での降下は実現されなかった。平成 13 年に再開、現在まで 3 年連続して実施され、今後も開校祭の花として永く続けて行ける事を願うものである（出来れば、観閲式当日に）。

光栄にも昭和 57 年に校友会会長より感謝状を受け（これも策士のなせる技か）、しかし平成 11 年に 2 度目の感謝状を受けるに至ってはそろそろ身を引く時期かなと感じるところである。

ここ 10 数年来 OB 会の設立を呼びかけて来た今、ここに設立の運びとなり、ようやく防大パラシュート部として独り立ちする時が来たと思う。

学生が、校友会、OB の援助を得て思う存分活動が出来るよう願うものである。しかし現役学生の本分は何か、最近学業を疎かにする学生がいるかのように聞こえる事は残念である。パラ降下は馬鹿では出来ない、理論を良く理解し、訓練する

事がなによりも大事である。更に防大生である以上、体力をしっかりつけよう。また常に感謝を忘れずに、卒業後、恩返しの意を含め後輩の活動を支援する気持ちをもって欲しい。

現状でも指導者を外部に頼らざるを得ない防大パラシュート部として、もはやボランティアでお願いする訳には行かない状況に有ると言える。

私ももはや第二の卒業期、若い指導者にお願いするためには、敬礼だけではすまない、近い将来 OLYMPIC 種目 (Style・Accuracy) になるかもしれないこの競技、今から鍛えても遅くはない。卒業後も活動できるよう先輩諸氏の大いなる協力を期待し、将来体育学校に種目として組み入れられる事を希望する。ちなみに現在の校長はパラシート部 OB である。更に日本落下傘スポーツ連盟おも防大 OB 会が主体になり進めるよう方策を傾倒願いたいものである。

最後は多少言葉足らずではあるが、皆で考えて欲しい。

以上。